

[掲載紙] 上毛新聞「点描ぐんま経済 日銀支店長 見聞録」

[掲載日] 2018年4月27日

[テーマ] 経営者の視点―「グンマ愛」が強みに―

3月に谷川温泉を訪れたが、泊まった旅館の窓からの谷川岳の姿に息をのんだ。4月初めに利根郡方面に春スキーに行ったが、リフトの上やコース途中からは雄大な景色が目に飛び込んできた。館林市のつつじまつりでは推定樹齢800年のヤマツツジのオーラを感じた。

ありのままの自然や、昔の湯治場の雰囲気そのまま残したかのような温泉宿は、訪れる者の胸を打ち、貴重だ。一方、バブル期にも見られたように、例えば大規模なリゾート施設の建設に当たっては、そのコミュニティにおいて、開発と眺望をどう両立させるのか、問題となることがある。開発によりいったん景観が失われると、それを復元するのは長い目で見ても難しい。一方、新規の投資により、地域の魅力が高まり、活性化する可能性がある。こうしたメリット、デメリットを短期的、あるいは長期的な時間軸で整理して関係者間で合意形成をしていくのはそう簡単ではあるまい。

本県で出会った各方面の方々からは、古来の歴史をうかがう機会が多かった。「上毛かるた」に象徴される地域・歴史への愛着がその背景にあるのだろう。こうした歴史感覚に裏打ちされて、当地経営者は短期のみならず長期的な視点も踏まえて投資価値を判断されているように思う。これは数多くある本県経済の強みの一つだ。

季節の移ろいを感じながら、ちょうど赴任1年が経過し、これから更に「グンマ愛」が深まろうという矢先、4月24日をもって前橋支店長を交代し、私は本店に転勤することになった。この間出会った多くの皆さまのご厚意に心より感謝申し上げ、筆を置くこととしたい。

日本銀行 前 前橋支店長
岸 道信